



常務取締役  
小林 剛氏

## 白山印刷 株式会社 様

<http://www.hakusan-p.co.jp>

本社：東京都荒川区西日暮里2-30-4  
TEL. 03-3802-3508

八潮第3工場：埼玉県八潮市大曾根1272-1  
TEL.048-954-6241

創業：1969年6月  
代表取締役社長：岡本 優子



白山印刷株式会社 八潮第3工場

## コールドフォイル印刷もホログラムも、 多彩な表面加飾をワンストップサービスで提供。

白山印刷株式会社は、紙製品の印刷から、化成品へのUV印刷、コールドフォイル（箔転写）による印刷加工の分野まで、高い技術力で幅広い需要に対応している印刷会社である。新たな高付加価値印刷の表現を追求する同社が、2014年4月にオフセット印刷の表面加飾用加工機として導入したのが、UVキャストリング・フォイルシステム搭載のB2判オフセット印刷機751Gであった。導入の背景と活用の事例について、常務取締役 小林剛氏と生産本部第3工場 特殊印刷グループ次長の小原一久氏にお聞きした。

### チャレンジ精神を持ち続け、 特殊印刷のスペシャリストとして 高い技術力を保有

白山印刷株式会社は、1969年の創業以来、常に特殊な印刷にこだわり、自社技術を高めてきた。いかに製品の付加価値を高めるかというクライアントの要望に対して、新しい技術や商品の開発を通じて、様々なソリューションを提案してきた。たとえば、油性オフセット印刷しかない時代に乾きにくいユボ紙や塩ビ材料への印刷を手掛け、またコータニスを使った圧着DMを開発してきた。2006年には日本で初めてオフラインのコールドフォイル装置を導入し、箔転写による金属光沢を求めるお客様への提案を行い、数多くの成果をあげている。特殊印刷のスペシャリストとして、オンリーワンカンパニーを目標に、オリジナリティを育む技術力と常に高品質をめざすチャレンジ精神が、大手クライアントや同業者から高い信頼を得ている。また、

埼玉県八潮市に3箇所の工場を有し、第1工場と第3工場に合計12台の印刷機を設置している。高額な特殊原反を使った印刷が多いため、多品種・小ロット印刷に最適なB2サイズ（菊半載サイズ）に統一している。第2工場には印刷の後工程として、ラミネート加工、抜き型加工、製本加工など幅広い加工設備を導入し、社内での一貫体制を整え、短納期の要望に対応している。



2階の専用ルームに設置されているUVキャストリング・フォイルシステム搭載751G

### 将来に照準を合わせ、 新たなオフライン表面加飾機を導入

新たな表面加飾の可能性を探求する同社が、将来に照準を合わせた設備として検討を始めたのが、UVキャストリング・フォイルシステム搭載のB2判印刷機751G（以下751G）だった。「当社は2006年に菊半載のオフライン式コールドフォイル設備を導入しました。この機械は印刷胴の圧

胴で箔を転写するタイプのため、箔が少しマット調に仕上がる傾向がありました。ホット箔や蒸着紙に近い箔の鏡面性を求めている時に知ったのが、UVキャストリング・フォイルシステムでした。2011年のIGAS展に出品されていた機械でコールドフォイル印刷のデモを見学し、その鏡面性の高さに驚きました。このシステムは圧胴で用紙に箔を圧着しないので表面に平滑さがあり、高い鏡面度が得られます。また、コールドフォイル“プラスアルファ”の表面加飾を追求し

WORKS

実績紹介



長年培ったノウハウを結集し、多彩な付加価値印刷を提案する



コールドフォイル印刷とエンボス調印刷を組み合わせた印刷物



コールドフォイル印刷とホログラムを行ったクリアファイル



厚紙パッケージへのレンズホログラム

ていた当社にとって、箔押しに加えてホログラムの転写加工も1台のできる機械というのは大変魅力でした。」と当時を振り返る小林常務。導入に向けて確認しておくポイントの一つは、主力ビジネスの一つでもあるクリアファイルなどの化成品へのコールドフォイル印刷の生産性だった。「クリアファイルは通常、逆像で印刷します。4色印刷の裏打ちとしてコールドフォイル印刷が確実に行えるか、広島の本社工場でテストを行ってもらい、テスト結果は良好でした。また、名古屋で同じシステムを導入されている鬼頭印刷様の稼動状況も見学し、ロールの交換作業での作業効率の良さも確認できました。」(小原次長)

同社では最終的な導入機種として、先刷りの4色印刷ユニット、または5色印刷ユニットを持たないオフラインのUVキャスト・フォイルシステム搭載機を選んでいく。「コールドフォイル印刷は4色印刷より先に行うことが多いですし、ホログラムは4色印刷の後に行います。さらに当社のUV印刷の半数は正刷りですが、残りは逆刷りなのです。インライン式があるのは知っていましたが、仕事の内容に合わせて先刷りと後刷りを、また正刷りと逆刷りを自由に選べる、オフライン式が最適でした。」(小林常務)。2014年4月、751Gは特殊印刷専用の第3工場に納入された。1階にB2サイズのUV印刷機2台を配置し、2階に751Gを配置して、オフセット印刷と表面加飾の連携をスムーズに行える工場レイアウトとなっている。

多彩な表面加飾を提供して顧客の心をつかむ

UVキャスト・フォイルシステムを導入した同社は、表面加飾の内製化で様々なビジネスが生まれている。書籍や雑誌の

表紙はもとより、高付加価値を求めるカード類、パッケージ、商品ラベル、POP用品など、コールドフォイル印刷やホログラムを付加した商品が次々と増えているという。「751Gの導入で様々な加飾サンプルの提案がワンストップで可能となりました。逆刷りでコールドフォイルを転写して表面からホログラムを施したクリアファイルは、新しい付加価値を求めておられた企業様に提案して採用されました。パッケージ印刷の事例ではPP加工の後に、人物の部分を抜いたレンズ絵柄のホログラムを提案して採用されました。キャラクターシールを、スポットでコールドフォイル印刷を行った事例もあります。当社は粘着加工を行う関連会社がありますので、シールなどのタック材の印刷もトータルプロモーションできます。」(小林常務)

「箔やホロのデザイン、印刷、加工を1社で担うことで、色校正の段階で印刷と併せて

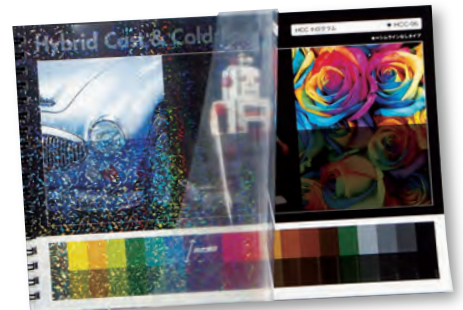


特殊印刷グループ次長 小原一久氏

表面加飾を一度にお見せできます。また、校正刷りの際に箔やホログラムの柄にバリエーションを増やして、お客様が選択しやすいようにしています。こうしたサービスが行えるのも自社で表面加飾用の設備を持っている強みだと考えています。」(小原次長)

プレゼン力を高めてさらなる需要開拓につなげる

コールドフォイル印刷やホログラムの表面加飾の認知度をさらに高めていきたいという小林常務。「特殊印刷ではお客様は実物を見て初めてその表現力と効果を実感されます。そのためにホームページも随時、リニューアルしていますし、コールドフォイル印刷やホログラムを駆使した会社案内や、色見本帳、自社の卓上カレンダーなども制作しました。こうした印刷物を通じて、私達の技術をもっとアピールしていきたいと思っています。」また、



コールドフォイル印刷とホログラムの色見本帳

UVキャスト・フォイルシステムを使った、新しい分野への技術応用も進んでいるという。「UVキャスト・フォイルシステムの導入に際しては鬼頭印刷様から色々とおアドバイスを頂き、本当に感謝しています。リョービMHIさんには今後も技術力アップのために、同じ技術を保有しているお客様同士の情報交換の場を作って頂けることを期待しています。」(小原次長)

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社 東日本営業部 湊 伸二

特殊印刷や加飾印刷の分野で長年の実績がある白山印刷株式会社様に、当社のUVキャスト・フォイルシステムを採用いただき、大変喜んでおります。広島の本社工場や名古屋の鬼頭印刷株式会社様での実機見学を通じて、箔の鏡面度合いの高さや、フィルム交換の作業性の良さなどを確認していただきました。

